

## 東アジアにおける社会的排除概念の有効性に関する再検討

2015年10月18日(日)  
唯物論研究協会第38回研究大会@群馬大学  
大阪市立大学都市研究プラザ・博士研究員  
志賀信夫  
Email : nobu.shiga.hyuga@gmail.com

## 研究方法

1. EUの「社会的排除／包摂」に関する研究は、理論研究が中心。
2. 東アジアに関する実証的研究は、1の理論研究をうけてすすめていく。

## 研究の背景

- EU : 「社会的排除／包摂」概念はシティズンシップ理論とセットで。
- 日本 : シティズンシップ理論研究の蓄積は少ない【伊藤 1996;133】。
- 東アジア : シティズンシップの観念が社会に根付いていない。

## 問題提起および本研究の目標

- 日本を含む東アジアにおいて、「社会的排除／包摂」概念は有効か。
- 「排除／包摂」の東アジア的説明が必要なのではないか。
- シティズンシップの権利および義務という概念の東アジア的説明から、「排除／包摂」を説明する。

## 1. 貧困理論 貧困の概念・定義・基準

## 貧困の本質

- 貧困とは【Townsend 1979 ; Lister 2004 ; 岩田 2005】

  1. ある社会において「容認できない生活状態」に関わる人びとの認識
  2. 生活状態に関わる社会規範
  3. 「容認できない生活状態」を下回るものとして明示される

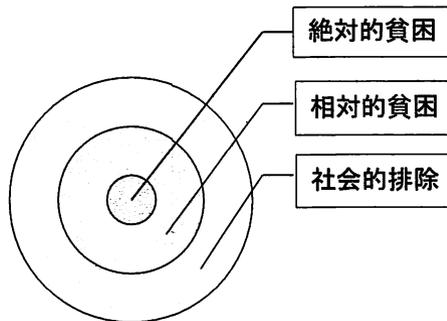
## 貧困の概念・定義・基準

- R.Lister[2004]の定義付けにしたがう
- 貧困の概念=貧困の意味(the meaning of poverty)
- 貧困の定義=貧困と非貧困の区別(distinguish poverty from non-poverty)
- 貧困の基準=定義の運用(operationalizing definitions)

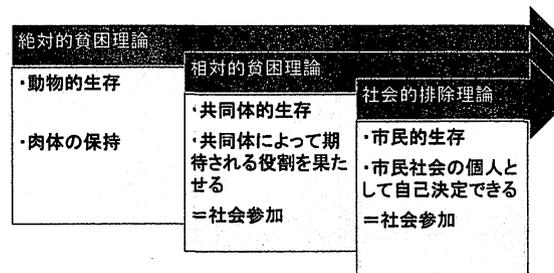
## 貧困の概念の本質と再定義

- 貧困の概念は、拡大してきた：絶対的貧困 ⇒ 相対的貧困
- 貧困の意味が拡大すると、再定義が必要となる

## 2. 貧困理論の変遷



## 生活状態と付加された意味



## 相対的貧困理論から社会的排除理論へ

	相対的貧困理論	社会的排除理論
社会参加	役割遂行型	自己決定型
人間モデル	能力達成モデル	能力多様性モデル
貧困をみる視点	所得・財	自由(財・能力・環境)

※「人間モデル」：現在、能力のない人でもエンパワメントしていくという社会政策が徐々に多くなっている  
 ※「貧困をみる視点」：多次元性については、多くの論者が指摘している[福原 2007; 中村 2005; Bhalla & Lapeyre 1999]

### 3. 社会的排除理論と自由

#### 貧困と「自由」

- 貧困 = 「自由(freedom)の欠如」[Sen 1985 ; 1992 ; 1993; 2009]  
= 「capabilityの欠如」

- 労働市場におけるcapability縮小の例  
⇒労働のスキルはあるが、そのスキルをいかすことのできる産業分野(労働者にとっての環境)が衰退した。労働者としての能力は産業衰退の前後で同じであるのに、capabilityは縮小した。

#### 貧困＝「自由の欠如」に対する批判

- Townsendの批判 :  
「Senは、我々が人間的ニーズを認定し、これを優先させる科学的基準については何も言わない」[Townsend 1993, 131]。
- Senは、どのような「自由」が重要であるのかを明確にしない。  
そのために定義から基準を導くことができない。

#### 「自由」の保障

- 貧困理論における「自由」の保障 ≠ 無規定な「自由」  
= 市民に保障すべき最低限度の「自由」
- 市民に保障すべき最低限度の「自由」 ≡ シティズンシップの諸権利
- Senの理論を、Freedom ⇒ Liberty へ変換して考える

※シティズンシップ：「ある共同体の完全な成員(full member of a community)である人びとに与えられた地位身分であり、この地位身分をもっているすべての人びとは、その地位身分に付与された権利と義務において平等」[Marshall 1992-1993, 18-37]。

### 4. 東アジアとシティズンシップの諸権利

#### 貧困問題の様相

- 日本を含む東アジアにおいても、「相対的貧困理論」の範囲を超える生活困窮の問題が社会化(社会問題化)している。
- 所得貧困だけでは最早貧困をとらえられない。
- 具体的な例  
現場の実践家が捉えている貧困と行政に携わる職員が論じる貧困の意味が異なっている。前者は排除から貧困を捉え、後者は剥奪から捉えている。

## 東アジアと「自由」

・東アジアの地域や社会にそくして、「自由」の範囲をどのように説明するのが課題。

・つまり、シティズンシップ理論を使用しない「自由」の説明の必要性。

※シティズンシップ理論にそくして東アジアを解釈するのではなく、東アジアにそくして保障されるべき「自由」の範囲に関する追究を行うということ。

## 日本、韓国、台湾に関する調査研究

・反貧困・反排除運動、反貧困・反排除のまちづくり・地域づくりが対象

・そのなかで特に注目したことは

(A) 実践活動をおこなう集団における個人間の関係性と「自由」

(B) 住民運動と市民運動の違いと「自由」

## (A)について

1. 排除しないまちづくり、地域づくりをおこなうなかで次第に個人に許容される「自由」の範囲が決まってくる。
2. 同時に、他者の「自由」に対する2つの責任が生じてくる。  
①他者の「自由」を侵害しない（個人の消極的責任）  
②他者の「自由」を保障する（集団の積極的責任）
3. 1が「権利」となり、2が義務として結実していく。

## (B)について

1. その実践活動が「住民運動」あるいは「市民運動」のいずれとして認識されるのかは、「社会性の有無」にかかっている。
2. 「社会性の有無」とは、その実践のなかの要求が普遍的な立法として妥当するか否かが判断の基準だと思われる（導かれた仮説）。

## (A)および(B)から得られる結論

・反貧困・反排除の実践のなかから、最低限度保障されるべき「自由」と「自由」に対する責任が社会性をもって生じてきている。

・反貧困・反排除の社会政策は、このような実践のなかから得られた「自由」に基づいて、指標を作成し、貧困の基準として付加していく必要があるのでは（定義の基準化あるいは排除指標の再構成）。

※東アジアおよびEUに共通する示唆はここでは省略した。例えば、「個的社会政策」の強調など。

### 参考文献

- Shultz, A. and Leppert, E., 1999, *Poverty and Exclusion in a Global World*, Basingstoke: Macmillan. (福原宏幸・中村哲吾訳。2009, 『グローバル化と社会的排除 貧困問題と社会排除への新しいアプローチ』岩波書店。)
- 福原宏幸, 2007, 「社会的排除/包摂論の現在と展望」バウダイム『言説』をめぐって(福原宏幸編著)『社会的排除/包摂と社会政策』法律文化社, 11-39.
- 伊藤周平, 1996, 『福祉国家と市民性』法政大学出版局。
- 岩田正典, 2006, 『社会的排除 参加の欠如-不確かな帰属の有様』。
- Litwak, 2004, *Poverty*, Folly Press. (松本伊知朗訳・立木謙訳, 2011, 『貧困とはなににか』研石書店。)
- Marshall, T.H. and Bottomore, T., 1992, *Citizenship and Social Class*, Pluto Press. (岩崎信彦・中村哲吾訳, 1993, 『シティズンシップと社会的階級』法律文化社。)
- 中村哲吾, 2003, 『欧州社会と近代国家の寛容-EUの多文化的ネットワーク』ガバメント・インク。
- 中村哲吾, 2007, 『社会理論からみた「排除」 フランスにおける理論を中心に』福原宏幸編著『社会的排除/包摂と社会政策』法律文化社, 40-73。
- Roentzen, B.S., 1912, *Poverty-A Study of Town Life*, Longmans. (原田弘毅訳, 1959, 『貧乏研究』イデア社。)
- Sen, A., 1981, *Poverty and Famines: An Essay on Entitlement and Deprivation*, International Labour Organization, In Sen, A. (編著)『山崎書店, 2000, 『貧困と正義』岩波書店。]
- Sen, A., 1982, *Choice, Welfare and Measurement*, East Blackwell Publisher. (大庭昌・川本雄史訳, 1989, 『合理的な思考 経済学-倫理的探究』岩波書店。)
- Sen, A., 1983, 'Poor Relatively Speaking', *Oxford Economic Papers*, 35, pp.153-169.
- Sen, A., 1985, *Commodities and Capabilities*, North-Holland: Elsevier Science Publisher. (岩田正典訳, 1988, 『福祉の経済学-財と存在能力』岩波書店。)
- Sen, A., 1992, *Inequality Reexamined*, Oxford University Press. (松本伊知朗・野上裕生・佐藤仁訳, 1999, 『不平等の再検討 存在能力と自由』岩波書店。)
- Sen, A., 1996, "Capability and Well-being" In Nussbaum, M. and Sen, A., eds., 1993, pp.30-53. 『竹友安彦監修・水谷めぐみ訳, 2006, 『フロンティア-オプ・ライフ-豊かさの本質とは』法政大学, 39-64。]
- Sen, A., 1999, *Development as Freedom*, Oxford: Oxford University Press. (石塚雅彦訳, 2000, 『自由と経済発展』日本経済新聞社。)
- Sen, A., 2009, *The Idea of Justice*, Penguin Books. (松本伊知朗訳, 2011, 『正義のアイデア』研石書店。)
- Townsend, P., 1974 *Poverty as relative deprivation*, Widdisturn, D. *Poverty, Inequality and class structure*, Cambridge University. (高山武志訳, 1977, 『相対的収縮としての貧困』ウェッジ・ダービー社編著『イギリスにおける貧困の理論』先進社。)
- Townsend, P., 1979, *Poverty In the United Kingdom*, Pelican Books.
- Townsend, P., 1993, *The International Analysis of Poverty*, Harvester Wheatsheaf.